

OTARU UNIVERSITY OF COMMERCE

GAKUEN DAYORI



小樽商科大学広報誌

vol.197

2025 SPRING

小樽商科大学 学園だより

小樽商科大学

● CONTENTS ●

学長挨拶	1
小樽商科大学同窓会 緑丘会理事長挨拶	2
伝統を受け継ぎ、未来へ繋ぐ。 文理融合研究「榎本石鹸プロジェクト」.....	3
“オアソビプロジェクト”ってなんだ?	3
オリンピック出場を目指す学生の紹介	4
ブログ「商大くんがいく!」.....	4

学生を支援する2つの基金（事業報告）について...	4
教育イノベーションセンターからのお知らせ.....	5
施設管理室からのお知らせ	6
「学生何でも相談室・特別修学支援室」のご紹介.....	7
闇バイトは犯罪です！ そのバイト、本当に大丈夫ですか??	7

ご入学おめでとうございます

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。厳しい受験勉強を終え、今は新しい大学生活に胸を膨らませていることと思います。皆さんが新たに本学の一員となることを教職員を代表して心より歓迎します。

これから始まる大学での学びは高校までのものと異なり、自主性が強く求められます。課題に対して仮説を設定し、自らの力で解答を導き出す能力を身に着ける必要があります。本学ではアクティブラーニングや研究指導によりこれらの能力獲得のサポートを行っています。また、リカレント教育やリスクリングという言葉がメディアでも取り上げられる機会が増えたように、大学での学修だけでなく社会に出てからのスキルアップが常に求められています。自ら学ぶ姿勢を大学時代に是非身に付けてください。

大学での学習の内容も大きく変わりつつあります。国際化への対応だけでなく、それらに加えてDXに対応するため、データサイエンスなどの知識が求められています。文理融合教育が叫ばれるなか、旧来の文系と理系の垣根が取り外されつつあり、多様性、社会の変化への対応、複眼的な視点を持つことなどがますます重要となっています。本学は2022年4月に帯広畜産大学、北見工業大学と経営統合し、北海道国立大学機構を創設しました。三大学はともに教育・研究面で協力しており、相互に授業をオンラインで配信しています。昨年度の相互配信科目は52科目あり、総履修者数は三大学あわせて9千人弱となりました。本学は相互配信科目としてアントレプレナー副専攻関連科目、「社会科学入門」、「北海道産業論Ⅰ」など14科目を提供しています。一方、帯広畜産大学は「とかち学」や「農業と経済」などの21科目を、北見工業大学は「プログラミング入門」、「技術イノベーション論」などの17科目を提供しています。このように本学だけでは提供できない科目を履修できることも学生の皆さんにとってのメリットです。特に本学が提供するアントレプレナー副専攻関連科目では札幌にある本学のビジネススクールで教授している知見なども提供しています。

長引くロシア軍のウクライナ侵攻以降、世界情勢は急速に複雑化と不透明さを増しています。イスラエルとパレスチナの紛争や中東情勢、台湾情勢なども含め我が国もいや応なしにその流れに巻き込まれています。政治情勢の変化は経済活動にも密接に関連しており、資源や農産物の価格上昇だけでなく、経済安全保障の問題ともなります。皆さんには是非このような世界の変化に敏感であってほしいと思います。

大学の4年間は自分の未来を創るための大変貴重な時間です。自分自身の可能性を信じ、失敗を恐れず、勉強のみならずあらゆることに挑戦してください。



国立大学法人北海道国立大学機構
小樽商科大学長

沢 真

小樽商科大学新入学生に 対するメッセージ

新入生の皆さん、小樽商科大学への入学おめでとうございます。同窓生を代表して心よりお祝い申し上げます。新しい大学生活が始まる今、皆さんが胸に抱いている期待や夢はどれも素晴らしいものだと思います。その実現に向けてさまざまなチャレンジがこれから始まることと思います。

この数年間、私たちは新型コロナウイルスやインフルエンザといった健康面での課題に直面してきました。多くの制約があった中でも、皆さんは学び続け、困難を乗り越えてきたことと思います。これは単に知識を得るだけでなく、困難を乗り越える力、すなわち自己管理能力や健康意識を高めることが大切であることを実感させてくれました。今後大学生活を送る中でも、身体と心の健康を保つことが何よりも重要です。日々の生活習慣を見直し、他者との協力や支え合いを大切にしながら、充実した学生生活を送ってください。

現代は、VUCA（変動性・不確実性・複雑性・曖昧性）の時代と呼ばれるように、社会のあらゆる側面が急速に変化し、多様化しています。これに対応するためには、専門的な分野にとどまらずさまざまな領域を学ぶこと、多様な視点を養い、複雑な問題に対して柔軟に対応できる力を身につけることが大切です。

商大は帯広畜産大学、北見工業大学と経営統合し、北海道国立大学機構としてスタートしており、社会科学系単科大学でありながら幅広い分野に接し学習する機会を与えてくれると思います。学ぶことに貪欲になり、高いレベルの知識を習得し、揺るぎない自信を持つことを期待しております。

商大では学問だけではなく、社会で活躍するために必要な実践的な力を養うためのさまざまな機会を提供していますので、その機会を逃さず積極的に挑戦してください。

時代の変化に適応し、未来を切り開いていく力は皆さん自身の手の中にあります。自分を信じ、学びを深め、仲間と協力しながら一步一步成長していきましょう。

最後に、商大には小規模だからこそ育てられてきた学生・教職員・同窓生の強い一体感があります。学生生活で培われるこの絆は将来の大きな財産になります。同窓会も皆さんとのコミュニケーションや支援・協力を惜しむことなく活動してまいります。



公益社団法人 緑丘会
理事長 幸坂 真也



小樽商科大学同窓会 緑丘会について

小樽商科大学の同窓会である「公益社団法人緑丘会」は、1939年（昭和14年）に法人化され、本部を東京・池袋サンシャイン60ビル・57階に置き、全国に24の支部、会員数約4,100名を擁しています。公益財団法人小樽商科大学後援会とともに母校の基盤向上のために、年間2千万円程度の規模で助成事業を行っております。

主な助成事業は次の通りです。

- ①学生の社会人基礎力養成、就業力育成に関する普及、啓発を目的とした「キャリア形成支援企業等セミナー」の主催
- ②正課教育である「エバーグリーン講座」の運営支援、講師選定及び資金助成
- ③グローバルセミナーⅡへの講師派遣
- ④国際的な視野に立つ人材育成を目的とした奨学金給付及びTOEICの受験費用補助
- ⑤就職支援として就職アドバイザーの設置と就職活動資金の貸与
- ⑥留学生等に対する奨学金の助成
- ⑦緑丘祭等への支援

伝統を受け継ぎ、
未来へ繋ぐ。

文理融合研究「榎本石鹸プロジェクト」

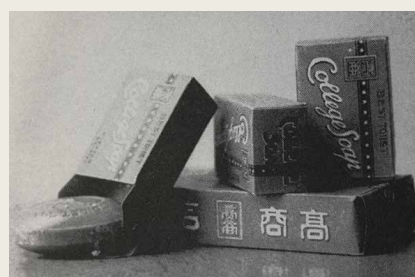
箱館戦争で知られる榎本武揚は、本学の前身である小樽高等商業学校(高商)の創設にも深く関わっていた歴史人物です。榎本は、文武両道の才に秀でて、獄中時代には化学の知識を活かして「石鹸製造法」を書き残しました。

この貴重な記録を手がかりに、2021年より始まった「榎本石鹸プロジェクト」では、歴史学の醍醐准教授(現：大阪大学)のゼミが中心となり古文書「石鹸製造法」を解読し、化学の沼田教授が古文書の製法をもとに実験を設計し、歴史学と化学のゼミで榎本石鹸の復刻に取り組みました。以後、敏感肌用や、榎本が好んだ牡丹の香りをイメージした石鹸を開発し小樽市内でテスト販売を行う等、商品化に向けた取り組みを加速させています。

本学には、高商時代から「実学」を重視し、授業の一環で、学内の石鹸工場で学生が石鹸を製造・販売していた伝統があります。榎本石鹸プロジェクトは、この伝統を継承しつつ、文理融合の研究を通じて新たな価値を創造し、地域活性化に貢献することを目指しています。



学生による石鹸復刻の様子



小樽高商時代に製造していた当時の石鹸



製品化された石鹸(左から、復刻版、牡丹の香、敏感肌)

11月から12月にかけて実施したクラウドファンディングでは、多くの皆様からご支援をいただきました。これらの資金で、大学公式グッズや地域のお土産品への展開を進め、小樽、本学の魅力を国内外に向けて広く発信していきます。

“オアソビプロジェクト”ってなんだ？

オアソビプロジェクトは、体験(=あそび)を通してまち(=社会)の課題に触れることで、課題を“自分ごと化”し、自分のまちをつくっていく人を育てるプロジェクトです。小樽市とも連携し、個人と社会のウェルビーイングを共通の目的地として活動しています。

これまでは、年に1回、ウイングベイ小樽を会場とした大規模なイ



ベントを実施し、その企画・運営を大学生はもちろん、小樽市内の高校生や若手社会人と一緒に行うことで、「若者の集まる場づくり」を進めてきました。

2024年11月30日(土)に開催した『オアソビプロジェクト2024』では、小樽市内の幼稚園児達と一緒に企画・運営を行った「縁日コーナー」や、高校生達と一緒に制作した「理想の小樽の模型展示」、合宿を通して発見した自分自身の未来を発表する若者ピッチイベント「じぶんシェアリング」等、様々な企画を実施しました。

これらの活動は、2024年度からサービス・ラーニング(奉仕活動(サービス)と学習活動(ラーニング)の実践を統合させた学習方法)の科目に含めており、1月～6月の活動を『社会連携実践Ⅰb』、7月～12月の活動を『社会連携実践Ⅱb』として開講しています。

単位に関係なく、オアソビプロジェクトにおける各種企画のリーダー的立ち位置で活動する実行部隊『地域活性化サークル O-ASOBI』も組織し、ビジネスアイデアソンや新商品開発等の独自の取り組みも進めています。

その他、オアソビプロジェクトの活動は、Instagram や商大くんがいくブログで公開しているので、是非チェックしてみてくださいね！



オリンピック 出場を目指す 学生の紹介

全日本スキー連盟スノーボードアルペン強化選手
 地下 綾音さん(1年生)



現役国立大学生として本学に通学しながら、全日本スキー連盟スノーボードアルペン強化選手として、2026年のミラノ・コルティナダンベッツォ五輪出場に向けて挑戦を続けている地下さんへインタビュー

Q1. スノーボードアルペンとはどのような競技ですか？

A. スノーボードアルペンは速さとスピードを競う競技です。2つの同じコースがセットされていて、2人同時にスタートし、どちらが先にゴールするのか、見てる人もわかりやすく楽しめる競技です。また、途中まで負けていても、逆転したり最後までなにが起こるかわからないところも大きな魅力です！また、使用する道具も通常のスノーボードとは異なります。ブーツはスキーのような見た目をしています、より硬いです。板も高速でターンをするために、細長く、硬い造りになっています。

Q2. 強化選手として今シーズンの大会や取組みについて教えてください。

A. 雪上練習が12月末から始まり、1月の前半に韓国で初戦がありました。GS、SLの2種目のレースがあり、それぞれ1位、2位という成績で、とても良い形でシーズンを迎えることができました。今後は、2月に中国、日本(阿寒)でのレースにそれぞれ2戦ずつ、3月にはポーランドで開催される世界ジュニア選手権に出場予定です。これらの大会で上位に入賞することでポイントを獲得し、ワールドカップ出場権を獲得することを目標にして競技に取り組んでいます。また、それぞれの大会の合間に、日本スノーボードアルペンチームの強化拠点である、長野県・菅平で行われる強化合宿に参加したり、北海道のスキー場へ行ったりして練習やトレーニングを行います。



Q3. 海外遠征などもあり学業との両立も大変だと思いますが、何か工夫されていることはありますか。

A. 冬のシーズンに被らない前期にできるだけ多くの対面授業を受けて、後期は競技に集中できるようにオンライン授業を多く取るように時間割を組んでいます。遠征や合宿の期間中でも授業や課題の期限を過ぎないように毎日1つは必ず進めるようにしています。また、海外遠征で学校にいけない期間は同じ授業を受けている友達に授業のことを教えてもらったり、教科書を持って行ってそれまでの授業の復習やテストの対策をしたりしています。

Q4. 最後に、2026年ミラノ・コルティナダンベッツォ五輪出場に向けての意気込みをお願いします！

A. オリンピックに出場するためにはまずワールドカップに出場して規定の成績を収める必要があります。そのため今シーズンはワールドカップ出場権獲得を目指して国内外の試合に出場します。小樽商科大学の学生としてミラノ・コルティナダンベッツォ五輪に出場するために競技ができること、そして、私を応援してくださる方々への感謝の気持ちを胸に1戦1戦自分の最高の滑りができるよう練習とトレーニングに取り組んでいきます！

よいお話を聞かせていただき、ありがとうございました。応援しています！



小樽商大の新鮮な情報を発信！

ブログ「商大くんがいく!」

商大職員と学生がタッグを組んで作っている「商大くんがいく!」ブログでは、商大生の活躍はもちろん、学内のさまざまな旬のトピックスについて紹介しています。



学生を支援する2つの基金(事業報告)について

皆様からご寄附をいただきました修学支援基金及び教育振興基金につきまして、令和6年度は以下の事業を実施しております。

○修学支援基金について

1) 授業料免除特別枠事業

2024年度前期 対象者 9名の授業料1/3を免除しました。
 2024年度後期 対象者 7名の授業料1/3を免除しました。

○教育振興基金について

企画事業名	合計
(1) 学生の正課・課外活動への支援事業	
1. 電子書籍及び冊子体書籍購入費	300,000
(2) 学生の国際交流活動への支援事業	
1. グローバル人材育成のための TOEFL 受験料補助事業	400,000
2. 交換留学等の派遣学生に対する奨学金支援	1,500,000
3. 海外危機管理サービス	350,000
(3) その他基金の目的達成に必要な事業	600,000
計	3,150,000

※事業実績額は令和6年度の決算後にホームページ等でお知らせします。



教育イノベーションセンター からのお知らせ



三大学単位互換科目－異分野の学問に触れ、幅広い視野を身に付けよう

北海道国立大学機構(小樽商科大学、帯広畜産大学、北見工業大学)では、自身の所属する大学の授業科目に加え、他の二大学の一部授業科目を受講することができます。これは、皆さんに大きなメリットをもたらす非常に魅力的な制度です。

■自分の専門とは違う視点を得られる「気づき」のチャンス！

商大では学べない授業科目、例えば農学や工学に関わる授業を受けることで、これまでとは全く異なる視点や考え方に出会うことができます。これは、自分の専門分野を客観的に見つめ直し、新たな「気づき」を得られる貴重な機会です。新しいアイデアや発想が生まれるきっかけにもなるでしょう。

■自分の専門をさらに深め、社会で活躍できる「武器」を手に入れる！

一見、自分の専門とは関係なさそうに見える分野でも、実は深くつながっていることが多々あります。異分野の知識を学ぶことで、今まで見えなかった関連性に気づき、商学の知識をより深く、多角的に理解できるようになります。これは、将来社会で活躍するうえで、強力な「武器」となるでしょう。

■多様化する社会で求められる「幅広い視野」と「課題解決能力」が身につく！

現代社会は複雑化し、一つの専門知識だけでは解決できない問題が溢れています。異分野の知識や視点を学ぶことで、物事を多角的に捉える「幅広い視野」と、様々な課題に対応できる「柔軟な課題解決能力」を養うことができます。これは、将来必ず役立つ能力です。

例えば、北海道経済に欠かせない「食」に関するマーケティング戦略を立案する場合、商大のマーケティング科目で市場分析、消費者行動、ブランド戦略などマーケティングの基礎となる考え方や概念、理論を学び、加えて、帯広畜産大学の科目で食の安全や農業経営に関する知識を、北見工業大学のデータサイエンス科目で市場トレンドなどを分析する手法を学ぶことで、より実践的な戦略を立てることができるようになります。

このように、異分野の授業科目を学ぶことは、皆さんの可能性を大きく広げ、将来のキャリア形成にも役立つ、非常に価値のある経験となります。

ぜひ積極的に他大学の授業も受講し、自分自身の成長につなげてください！

1 科目の相互提供、教養教育科目群の共同運用

三大学ならではのリベラルアーツ科目を提供します。 →令和6年度は52科目を提供

異分野に触れることで、多様化する社会のニーズに応える能力を涵養できます。
一部科目ではオンラインや対面で他大学学生との交流もあります。

及 び 教 育 科 目 群 の 例

数理・データサイエンス科目

数理的思考、データ分析・活用能力を
習得する導入教育

- ▶数理データサイエンス概論
- ▶プログラミング入門I 等

文理融合導入科目

分野を越えた専門知を育成するための
導入教育

- ▶社会科学入門
- ▶農業とテクノロジー
- ▶農業と経済
- ▶地球環境科学 等

地域理解・課題解決型科目

地域の課題解決に向けた意識を涵養
するための基盤教育

- ▶北海道産業論I
- ▶地域活性化システム論
- ▶とかち学
- ▶北海道学 等

ベンチャーマインド醸成科目

ビジネスプランを立案・実施できる能力を育成

- ▶アントレプレナーシップ概論
- ▶科学技術と社会の展望
- ▶アントレプレナーシップセミナーI 等

単位互換科目の一覧は商大 HP でご確認ください。

<https://www.otaru-uc.ac.jp/student/sandaigaku-kamoku/>

4号館をリニューアルしました！

4号館の新たな魅力

小樽商科大学は、開学以来「実学・語学・品格」を教育理念とし、深い専門知識と識見を有し現代社会の複合的な問題の解決に指導的役割を果たす人材育成を行う為の環境を提供するため、4号館を増改修しました。

4号館外装を一新

1978（昭和53）年に建設された4号館は、現代のニーズに合わせて生まれ変わりました。伝統を大切にしながらも、2019（令和元年）の図書館改修から大学敷地内の外装色に使用されているユニバーシティカラー（エンジ）を基調とした外装に一新し、常に進化を続ける小樽商科大学の姿勢を象徴しています。



先進的な ICT 環境

電気設備やネットワーク設備も大幅に改善され、ICT（情報通信技術）を活用した教育研究がスムーズに行えるようになりました。これにより、最新の技術を駆使した学びが可能です。

最新の設備と快適な学びの場

4号館は、大学院生の研究室、ゼミ室、講義室、教員の研究室など、多くの学びの場を提供しています。

今回の改修で、内装や換気、防災設備が一新され、より安全で快適な環境が整いました。



エレベーター棟の増築とエレベーターを新設し、学生の構内移動を円滑に行えるようにしました。

これにより、1～5号館、図書館、情報総合センター、一養校舎は、すべての学生が安心して移動、利用できる建物群となりました。



多様な背景を持つ誰もが利用しやすいよう、1階には多目的トイレを1箇所、オールジェンダートイレを2箇所増設しました。

小樽商科大学は、これからも
学生の夢を叶える為の最高の学びの環境を
提供します。

学生何でも相談室と特別修学支援室について

本学には大学生生活全般の悩みに対応する「**学生何でも相談室**」と障がいのある学生を対象とした「**特別修学支援室**」が設置されています。

学生何でも相談室には心理カウンセラーがおり、学生生活上の悩みにアドバイスをを行います。相談内容は、自分の性格に関すること、友人関係や恋愛関係に関すること、部活・サークルに関すること、アルバイトに関すること、学習・進路に関することなど多様です。悩みの解決のための選択肢のひとつとして、気軽にご利用ください。

特別修学支援室は、障がい（身体障がい、発達障がい、精神障がい等）のある学生の皆さんが大学で充実した学びができるよう支援するための部署であり、授業担当教員や学内外の各部署と連携して必要な教育的配慮を計画・実行していきます。障がいの有無が明確ではない場合であっても相談可能であり、情報提供等を行っています。

両相談室の開室時間や予約方法については、右記のウェブサイトをご確認ください。



学生何でも相談室



特別修学支援室

闇バイトは犯罪です!!

そのバイト、
本当に大丈夫
ですか??



●闇バイトとは

仕事の内容を明らかにせず、高額な報酬を示唆するなどして犯罪の実行者(捨て駒)を募集することです。SNS等で闇バイトや不審なアルバイト募集をしている相手に、個人情報を送信した結果、自身や家族に危害を加えるなどと脅迫され、強盗や詐欺に加担する事件が多発しています。

●闇バイトの特徴

①

仕事内容を明らかにせず、**高額な報酬**を掲示している。



②

応募した後、**匿名性の高いアプリ**(テレグラム・シグナルなど)へ誘導される。



③

運転免許証や顔写真など、**個人情報の送信**を求めてくる。



「荷物を受け取る・運ぶだけ」、「電話をかけるだけ」、「現地調査」など簡単な作業内容をチラつかせ、「現金・薬物の受け子・運び屋」、「振込詐欺のかけ子」、「強盗の下見」の犯罪行為に加担してしまい、やめたと思って犯罪組織より個人情報をもとに脅迫を受け、抜け出せない状況に陥ります。**たった一度でも手を染めれば最後には必ず警察に検挙されます。関わって得られるものは何もありません。**

●闇バイトに申し込んでしまったら…

すぐに最寄りの警察署又は警視庁総合相談センターに相談してください。

警察はあなたやあなたの家族を絶対に守ります。

小樽警察署：0134-27-0110

札幌中央警察署：011-242-0110

警視庁総合相談センター：03-3501-0110